

KSKQ

一般社団法人 日本障害者カヌー協会 機関紙 パラマウント通信

2020/11/24

コロナに負けるな
カヌーやるぞ!号

No.81

コロナに負けるな! 『第3回全国200M競漕大会』が行われました。

8月9日(日)、石川県木場潟カヌー競技場で『第3回全国200M競漕大会開催』が開催されました。カヌーを漕ぐ事の楽しさを知って欲しいとの思いで、艇の規格等関係無しの200M公式レースで200Mレースを体験しようという大会です。今年はコロナ禍の中、コロナウイルス感染予防ガイドラインに従い、最善なる準備の中開催されました。今回は関西からの参加者新川雄彦さん、直人さん親子からリポートを頂きました。

200m競漕してきました! 新川 雄彦さん

私が木場潟を訪れるのは今回で2度目となります。前回は2017年9月の日本選手権のときで、愛犬と二人でレースを見に来ていました。その時は、中嶋明子選手のサポートをさせていただけました。不慣れなことで不手際もあつたと思いますが、私にとっては良い経験となりました。そして瀬立モニカ選手ともお話ができ、大学の宿舍が私の住んでいた宿舍と同じであることが分かってビックリしたのを覚えています。

今回の200M競漕については、ホームページで紹介されている写真の中で、知り合いの大須賀さん(大阪パラ事務局長)が手を振っている姿を見るたび、誘われているような気がして、今回めぐり合わせも良く参加できました。そしてこのコロナ禍での中大会開催にご尽力いただいたスタッフの皆様にお礼申し上げます。

さて、今回の200M競漕が私達家族に取って今年初めてのカヌーということ、前日練習は欠かせないと思い、前日の早朝に家を出発しました。会場の木場潟に着くと学生のレースが行われていたようで、賑やかな雰囲気でした。事務局の上岡さんにご挨拶をして、昼食後練習させていただきました。



事務局の上岡さんと、直人さん



会場ではマスク、フェイスシールド、携帯アルコールスプレー、マスクケース、ウエットティッシュを配布



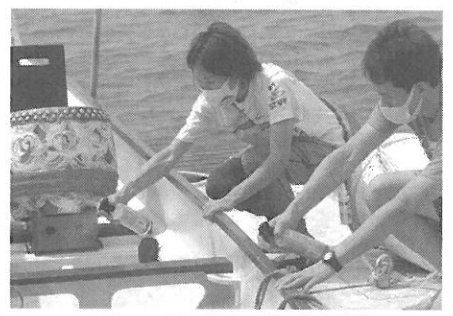
3密だけでなく熱中症にならないように水際にテントをたくさん並べました

息子の直人は、久しぶりのカヌーで、上手くコントロールできず、ちよつとテンション下がってしまいました。そして当日。受付の時刻が近づくと続々と人が集まってきました。会場では検温&健康チェックをはじめ万全のコロナ対策が施されています。レースに貸し出されるカヤックも選手が入れ替わるたびにスタッフの方が丹念に消毒して下さ

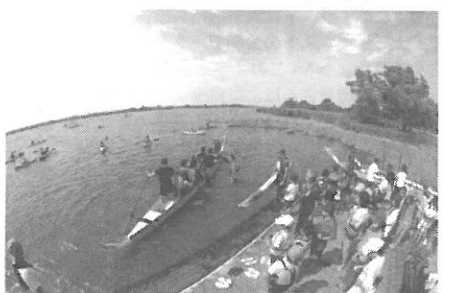
り、もはや感謝しかありません。会場ではDJケチャップさんが軽妙な語り口で盛り上げてくださり、寄付グッズ紹介ブースや屋台の出店もあり楽しい雰囲気の中でいよいよ出漕!と、いきいたところですが、案の定直人は尻込みしてしまい参加することが出来ませんでした。



受付をする人はフェイスシールドを着用、このメガネ型は熱が籠もらずオススメです



アルコールで座面、パドル等を消毒



会場は色んな種類のカヌーが水に浮かびました



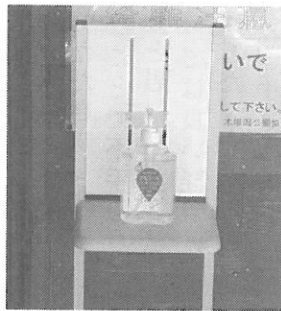
ドラゴンボートで太鼓を叩く直人さん

直人は競技には参加出来ませんでした。が体験会でドラゴンボートに乗せてもらい、太鼓を叩いて上機嫌でした。家族の200Mの結果は、家内は2位入賞、私は、大きくコースアウトしていたので本当は失格なのですが、3位に入ることが出来ました。直人は次回はドラゴンレースに参加したいようです。(おそらく太鼓で)。

今回圧巻だったのは瀬立モニ力選手のレースです。強風をものともせず、無駄のない美しい動きと飛ぶような速さに驚かされました。レース後には、最近出版された本にサインもいただきました。東京オリンピックのご活躍をお祈りし

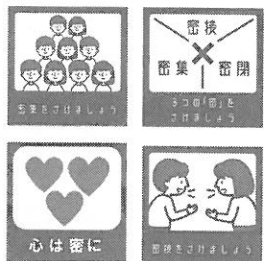


3密にならず少人数で集合写真



アルコール消毒を会場各地に設置

ております。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、名残りを惜しみつつ帰路に着きました。来年も皆さんにお会いできることを楽しみにしております。



新型コロナウイルス対策推進中

一般社団法人日本障害者カヌー協会



新型コロナウイルス対策推進中

一般社団法人日本障害者カヌー協会

『ドラゴンボートがやってきた』

はじめまして、ドラゴンボートぱっと見た目は怖いけど、じっと見るとかわいいなあ怖いばかりじゃない優しさもある太鼓をたたきながら、片手パドルをこぐかっこいいなあ乗りたいなあ乗ったらどんな感じだろうそれは乗ってからのお・た・の・し・み僕はちゃんとこげるかなあ心配になってきたなあ僕が楽しみにしていたドラゴンボートがついに出番だドラゴンボートには一台ずつ太鼓が積まれていた僕はこぐより、ドラゴンボートで太鼓をたたきたくなった僕はドラゴンボートに乗りこんだ小学校以来の太鼓を、初めて体験したこぎてのお兄さんに教えてもらいながら太鼓をたたいた隣のドラゴンボートと500mの競争をした練習したとおりにたたいた隣のドラゴンも太鼓を叩いていた僕がおりてからも次のドラゴンが太鼓をたたいていたあんなに太鼓を叩くとは思わなかった気持ちいい一番楽しかったのはドラゴンボート本当にドラゴンボート可愛かった迫力も、力も…ご機嫌なドラゴンボートだった僕たちにどれだけのパワーをくれたことだろうみんなに大活躍今日は大活躍おつかれさま

大会に参加した直人さんから感想文をいただきました。



日本障害者カヌー協会では、安全に安心してカヌー大会、イベントが出来る様にHPでガイドライン、コロナ啓発ポスターをアップしています。

ガイドラインは、改正基本的対処方針を受けて、各種スポーツイベント(強化活動及び普及活動)を再開するに当たっての基準や、再開後の開催時における感染拡大予防のための留意点について、専門家会議の提言等を参考にして、まとめたものです。

ポスターは5種類、協会HPからダウンロード出来ます。200Mの会場でも掲示されておりました。

このイラストは大阪府門真市役所コロナ対策イラストの公開データを活用させて頂きました。このイラストをデザインされた職員さんは、以前働いておられた印刷屋さんでパラマウント通信のデザインをされていた方です。

協会のコロナページと、門真市のコロナ対策公開ページのURLをUPさせて頂きます、是非各地のイベントで活用ください!



日本障害者カヌーコロナガイドライン



日本障害者カヌーコロナ啓発ポスター



門真市役所コロナ対策

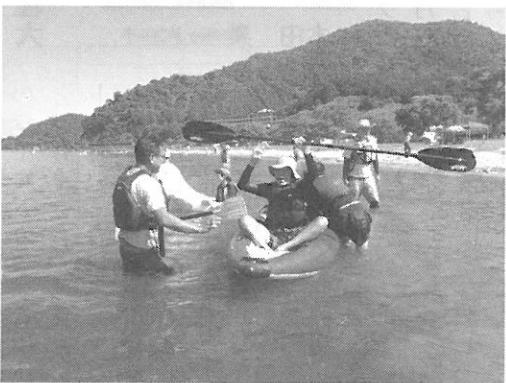
びわこレインボーカヌーに 参加しました!



びわこレインボーカヌー 参加者
山田 淳さん

びわこレインボーカヌー 参加者
山田 万里さん

2019年9月15日、びわこレインボーカヌー（以下レインボーカヌー）が琵琶湖近江八幡休暇村で開催されました。今回は山田万里さん、淳さん親子からレポート頂きました。



びわこレインボーカヌーに12回目の参加をしました山田淳と母の万里です。
初参加は2007年9月23日、小学3年生でした。テレビでカヌーを見て、やってみたいと言い出しました。
淳はダウン症で2歳を過ぎても歩けず「歩けそうなのになぜ歩けないのでしょうか?」と言うと、療育センターの先生は「お母さん、歩きたいという気持ちが強くないと歩けませんよ。」と答えられました。それからずっと淳が〇〇したいという気持ちになることを大切にしている、やりたいということは叶えてあげると

うにしています。
私の趣味は、パイプオルガンの演奏です。ポーツは大の苦手。まして屋外でカヌーなどどうしたらいいのか悩みなながらインターネットを検索したら、パラマウントチャレンジカヌーに滋賀（現びわこレインボーカヌー）が出てきました。しかも琵琶湖、近くの浜で開催されていたので、勇気をふりしぼって参加申込をしたのでした。誰も知らないところへ飛び込んだ私達親子を、温かく優しく迎えて入れてくださったパラカヌーの皆様にとっても感謝しています。
あの頃の淳は初めて

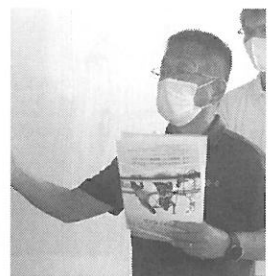
の砂の感触に歩けず抱っこでカヌーに乗せてもらい、あまり漕げないのでカヌーをつないで引っ張ってもらい、波の揺れに心地よくウトウト。それでもカヌーから降りるとは言わなかったのです。それから年に一度のカヌーを楽しみにしています。

20歳になった淳は、岸からカヌーを出すのも自力で行ない、カヤックも自由自在に操れるようになって12回の継続の力を感じます。余談ですが、12年間雨で中止になったことがありません。前日から大雨ですが中止かと思ったらカヌーの始まる時間に小降りになり止んで晴れたり、撤収後に雷雨になったり、不思議とカヌーの間はお天気が大丈夫です。今年も翌日の琵琶湖は強風でスポーツイベントは中止になったところもあったようです。お天気の神様も応援してくれているびわこレインボーカヌーがこれからも続きますように願っています。



2020年度日本パラカヌー選手権大会を開催しました

2020年9月9日～13日石川県木場潟カヌー競技場で、SUBARU 日本カヌースプリント選手権大会・令和2年度日本パラカヌー選手権大会兼 2021 カヌースプリント・パラカヌー海外派遣選手一次選考会（以下日本パラカヌー選手権大会）が開催されました。東京パラリンピックが1年延期され、アジア選手権、ワールドカップ等の大会は相次ぎ中止になる中、万全な新型コロナウイルスの感染防止対策を講じることで大会は開催する事が出来ました。今回ヘッドコーチの本田泉さん、選手の立場から加治良美選手からレポートを頂きました。



本田 泉 ヘッドコーチ

日本パラカヌー選手権大会が開催されました。

令和2年度日本パラカヌー選手権大会が9月9日（水）～9月13日（日）に石川県小松市の木場潟カヌー競技場で開催されました。大会は初日2日目とスプリントの1000m 競技が、3日目4日目にスプリントの500m 競技がそれぞれ行われました。競技距離が200m であるパラカヌーのレースは最終日にスプリントの各種目とともに実施されました。パラカヌーのレースを前に、11日・12日にはクラス分けが、クラス分け終了後は監督会議が行われました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で東京パラリンピックも1年延期され、今年3月に開催が予定されていたアジア選手権も中止、東京大会の最終予選会となる5月のワールドカップも中止となりました。スプリントにおいてもジュニアなどの主要大会が中止となるなか行われた日本選手権の開催にあたっては、日本障害者カヌー協会の競技運営委員会もスプリントの同委員会と打合せを重ね、感染防止策を講じることで大会を開催していたことができたことに感謝しています。パラカヌーをはじめ200m の競技が行われた9月13日（日）は、前日までの穏やかな水面から一転し、向かい風が吹いたようになったレースがあったほどの荒天となってしまいました。来年5月に開催される東京パラリンピックの最終予選会となるワールドカップを始めとする国際大会に出場する海外派遣選手の選考会の1回目（2回目は来年3月を予定）となる大会ということもあり、荒天の中でも選手たちは全力を尽くしてレースを展開しました。審判部長をはじめとする大会役員・審判員の方からも波や風がある中で最も困難となるスタートの整列からゴールまで、整然と全力でレ

スが展開され、各選手の競技力の高まりを実感でき、全レースとも素晴らしいものであったと伺いました。今年の日本選手権には初参加の2名を含む17名の選手が出場しました。2015年には8名、2016年は7名、2017年は16名、2018年は20名、2019年は18名の参加と出場選手数は伸び悩んでいるという見方もあるかもしれませんが、地元での練習の頻度は様々だと思えますが、海外派遣選手の選考を兼ねた大会であるということ、大会を重く考えることなく、多くの選手が年に一度の日本選手権で漕ぎに集まる大会になることが、ひいては今後のパラカヌーに対する注目度の一層の高まり、我が国の競技力の高まりにもつながっていくと感じています。大会開催に向けての準備から当日の運営まで、選手をサポートしてくださった競技役員の皆様、チームスタッフの皆様、あらためて感謝申し上げます。

夢を現実に



加治 良美 選手

新型コロナウイルス。今年初めにこのウイルスが流行し始めた頃、東京オリパラが延期になるとは思いもしませんでした。三月頃、最終枠取りの大会となるはずだった大会が延期または中止と発表されました。もうその時点で、自分の頭の中は真っ白になり、気が付けば涙が出ていました。中止の場合は最後のチャンスが奪われ、東京パラ出場場の夢は断たれることになりました。しばらくの間、魂が抜けたような感覚でしたが、延期を信じて今やれることをやるしかないという気持ちを切り替えました。

四月から五月中旬頃まで水上での練習ができず、エルゴでのトレーニングと自重トレーニングを行いました。エルゴでのメニューは水上メニュー以上にきつく、毎回終わるごとに床に倒れこむほどでした。辛すぎて途中でやめたくなることも何度もありました。自粛期間中やっていたものが必ず夢につながるものだと信じてやり切りました。恥ずかしい話、自粛期間前は懸垂や綱のぼりが満足にできませんでした。自粛期間中にはそういったことにもチャレンジしていききました。

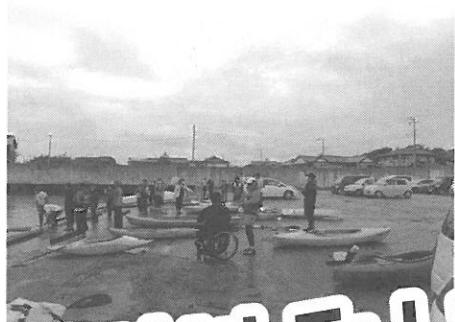
以前は、「自分にはパラリンピックなんて無理なので」と心のどこかで思っていました。練習を積み重ねていくうちに、エルゴでのタイムトライアルでも成果が出てきました。自粛明けの合宿では思っていた以上に良いタイムが出すことができ、この頃から自分に自信がもてるようになっていきました。

そうして迎えた日本選手権。朝から大雨で風も強く、最悪なコンディションでした。これまでのレースも風が強い日は何度かありましたが、そんな時は決まっていたが、そんな時は決まっていた。沈せずにゴールまで漕ぎ切るのが精いっぱいでした。沈むのが怖い方が勝り、守りに入ってしまうばかりでした。でも、今回ばかりはそんなレースはもうしないと強く思っていました。風や波に臆することなく、レースプランをしっかりと心に残して最後まで漕ぎ切ると心に決



令和2年度日本パラカヌー選手権大会リザルト

200M 決勝成績		石川県小松市 木場湯力ヌー競技場 2020年9月13日開催								
		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
KL1	決勝	高木裕太 01'14"330 インフィニオンテクノロ ジーズジャパン(株)								
KL2	決勝	辰巳博実 00'57"021 デス・エンジニアリング株 式会社	高岡空幸 01'17"424 岐阜県カヌー協会(パラ ヌー部)							
KL3	決勝	今井航一 00'57"844 (株)コロブラ	小山真 00'58"849 埼玉県カヌー協会	濱田美穂 01'08"108 江東区カヌー協会	堀江航 01'12"967 GCF	我妻進之 01'13"083 (株)サンテック	山田隼平 01'21"000 パナソニック吉備株式会社			
VL1	決勝	関根徹哉 02'27"903 江東区カヌー協会								
VL2	決勝	加藤隆典 01'14"351 岐阜県カヌー協会(パラ ヌー部)	朝日省一 01'40"471 日本障害者カヌー協会							
VL3	決勝	今井航一 00'58"645 (株)コロブラ	辰巳博実 01'01"438 デス・エンジニアリング株 式会社	藤野正晃 01'07"398 江東区カヌー協会						
WKL1	決勝	瀬立モニカ 01'05"069 江東区カヌー協会								
WKL2	決勝	宮崎志帆 01'14"162 埼玉県カヌー協会								
WKL3	決勝	加治良美 00'56"255 ネットトヨタ名古屋株式会 社	増田沙里 01'17"550 江東区カヌー協会							
競技委員会委員長								審判部長		
石井砂織								安井園土		



パラマウントチャレンジャーが千葉へ来て来た PARAMOUNT CHALLENGE CANOE COMING TO CHIBA!! カヤ!カヤ!カヤ!



2020年9月27日千葉
県で初めてのパラマウント
チャレンジカヌーが開催さ
れました。心配された天気も
持ち初めての千葉、パラチャ
は大成功で終わりました。第
1回の記念すべき千葉は、参
加者の阿倍典光さんからリ
ポートを頂きました。



阿倍 典光さん

9月27日、「パラマウン
トチャレンジカヌー」が千
葉(栗山川漁港)に参加
いたしました。

私の障がい者スポーツ
経歴は、これまで卓球競
技が主体でしたが、還暦
を迎える中、町で行われ
た軽パラスポーツ教室へ
の参加などを通じて、台
風や新型コロナウイルスにより2
年連続で中止となってい
ましたが、一昨年から全
国大会に向け、フライン
グデイスク競技に初
チャレンジしているころ
でありました。

今回このようなつなが
りから、横芝光町の障が

い福祉課より参加意向の
ご案内があり、参加する
ことに決めたとわけてす
が、「右上肢切断の障害が
ある私がまともに漕ぐこ
とができるだろうか?あ
まり泳ぎもできないし大
丈夫?」などの不安があ
りました。しかしながら、
妻の方がカヌーに大分興
味があるようで、出来そ
うも無かったら見てれば
:」との思いの中での初
のカヌー体験となりまし
た。

当日の天候はあまり良
くありませんでしたが、
車いすや知的障害がい
者、付添いの方など30名
程の参加者でしたが、町
長も臨席され「当町の魅
力である水を活かしたパ
ラスポーツのカヌーを推
進したい」との祝辞をい
ただいた後、地上でパド
ルの持ち方や漕ぎ方(パ
ドリング)の講習から開
始されました。

片手でのパドリングは
やはり無理かも:と思っ
て暫くすると、福祉課の
方とサポートスタッフの方
が見えられ、「茨城県に
も同じような障がい持っ
た方がやっている」との
ことで、丁寧にもまた手慣
れた感じでパドルと切断

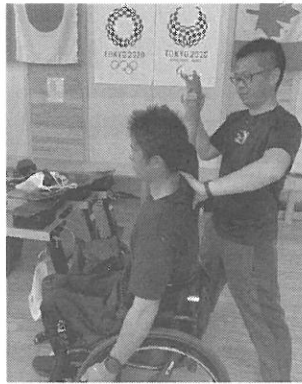
した右前腕を繋ぐツール
を作って下さいました。

「これでやれる!」と言
う高揚した気分と「転覆
して溺れたら:やばい!」
とのドキドキした中で、
いよいよ水上で初のカ
ヤックに乗る時がやって
来ました。グラグラして、
スタッフの方に「ひっく
り返りませんか?」など
とびりながら恐る恐る
乗ったことを今思い出さ
れます。でも、思い切って
漕ぎだすと思いのほか安
定して進むのが気持ちよ
く、曲がり切れなくて相
手のカヤックや岸壁に当
ったりしましたが、パ
ドリング操作も楽しくな
り、いつの間にか無中
なっていました。

また来月に体験会を開
催するのご案内があり
ました。スタッフの方に
はパドルと右前腕を繋ぐ
ツール設置の手間をお掛
けして恐縮でありました
が、私のような障がい
でもやれるスポーツであ
ることの証として、また、
パドルを入手して自分で
設置できるようにし、本
格的に競技にも参加でき
るレベルになることを目
標に継続したいと思った
初のカヌー体験でした。



今号から始まりました。日本障害者カヌー協会に関わって下さるナイスな人を紹介するコーナー。今回は岐阜県カヌー協会所属の加藤隆典選手を支える理学療法士の中島康平さんを紹介いたします。



加藤選手を陰で支える中島さん

夢叶うまで挑戦

中島康平さん

私は、2年ほど前から岐阜県カヌー協会所属の加藤隆典選手をサポートしています。私自身は「スポーツに関わる仕事をしたい」と夢を持ち、理学療法士になりました。しかし理学療法士の世界では、スポーツに関わる仕事は門が狭く、とても難しいと言われていました。しかし、夢を諦めきれず模索していたところ、所属先の病院がある碧南市が加藤選手の出身地であり、パラリンピック出場という壮大な夢に向かって頑張っていることを知りました。さらに、共通の知人がいたことか

ら、サポートをさせていただく機会をいただきました。

私は、カヌー競技に関しての知識は全くなく、トレーナー活動も初めてであったため、右も左もわからない状態でパラカヌーのトレーナー活動を開始しました。そんな私を、加藤選手をはじめ、岐阜県カヌー協会の皆さんは暖かく受け入れてくれました。選手の皆さんや、他トレーナーの皆さんから、カヌー競技や、サポートに関する知識や技術などを教えていただき、少しずつトレーナーとしての役割を見つけることができました。現在では、日本障害者カヌー協会の強化スタッフとして選手をサポートしています。

パラカヌーは、とても強度の高いスポーツでありながら、水上でのパドル操作など精密な技術を必要とします。日々のトレーニングもとてもハードで、怪我を抱えている選手もいます。選手の皆さんが、少しでも良い状態で最高のパフォーマンスが発揮できるよう、トレーニングによる疲労のケアや、パフォーマンス向上を目的としたトレーニングなどを行っています。

学生の頃から掲げていた「スポーツに関わる仕事をしたい」という夢は叶いました。次の夢は「選手の皆さんがパラリンピック出場という夢を叶えられるよう全力でサポートすること」です。夢は、諦めずに挑戦し続ければ叶うと信じています。

まだまだ知識、技術共に至らない点が多々ありますが、少しでも質の高いサポートを行えるよう自己研鑽を積み重ねていきます。

「水上のフライト」
パラカヌーが映画になりました！

パラカヌーが映画になりました！
コロナで延期になっていましたが、公開日が決定しました。実話から着想を得た感動の物語。私達、日本障害者カヌー協会も、微力ながら協力させて頂きました。

大学3年生の藤堂遥は、オリンピック出場が有力視される走り高跳びの選手だった。しかし、不慮の事故で脊髄を損傷し、下半身が麻痺してしまふ。もう二度と跳ぶことはできない……。絶望に沈む遥だったが、カヌーとの出会いが彼女の人生を変えた。新たな目標、パラリンピック出場を目指し遥はもう一度走り始める……。実在するパラカヌー選手に着想を得た感動物！



6/12(金)全国ロードショー



映画の情報は
こちらから
チェックして
下さい。

飛ぶことをあきらめない。
大切な人の想いとともには。

中染あやむ 杉野通亮 大塚寧々 小澤征悦

「実話」から着想を得た感動の物語。

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一)・二・三・四・五・六・七・八日発行 発行人/関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4F 定価一〇〇円

パラカヌースプリント競技役員ワークショップを開催します

コロナ自粛で延期となってましたが、ついに念願の開催！オリパラNTO 競技役員ワークショップを海の森水上競技場で開催します。日本のカヌー大会を通じて、共生社会を創造したいという思いにより、ついに実現。日本障害者カヌー協会と日本カヌー連盟が共同でワークショップを開催します。

実施目的

- オリパラの共通理解を深め、競技役員や大会ボランティアの育成につなげる。
- 大会運営業務や競技ルールを理解することで、カヌー競技役員や大会ボランティアとして関わる楽しみを広げる。
- 役員補助手順を理解することで、業務を実施する現場に余裕が生まれ公正な判断につながる。
- 出場選手や観客だけでなく関係者全員が楽しめる大会となるよう関係者の知識を広げる。

たっぷり勉強になり楽しめる2日間のプログラムを企画しました。日本カヌー連盟のA級審判資格取得から、競技大会の裏側、役員のお仕事、パラカヌーのクラス分けについて、これからの日本カヌー界を熱く語り合うパネルディスカッションもお楽しみに！



ホームページから要項をご確認ください

Let's out on the Water with Mask!!

日本障害者カヌー協会 寄付オリジナルマスク新色完成!

大変好評を頂いています、日本障害者カヌー協会 寄付オリジナルマスクが3種類になりました。

表面は速乾性の水着素材を、裏面には冷感素材を使用しています。新しい生活スタイルの一部になったマスク、せっかくなので色々なデザインで楽しみませんか！

寄付1800円でマスク1枚のプレゼントです！

お申し込みは右記URLから送付書をダウンロード頂きお申し込み下さい！



今後の「パラマウント通信」の発行について

パラマウント通信は1994年12月『障害者カヌー協会設立準備委員会発起にむけての趣意書』を載せた創刊号から26年、日本障害者カヌー協会の歴史をお伝えしております。通信の発行は全て会員の皆様の会費から発行させて頂いておりますが、昨今の会員数の削減等で年間3回の発行が難しくなって来ております。今後、年間3回の紙媒体での発行では無く、紙媒体としては1回にして、残り2回はホームページ上でのWEB版通信としての発行も検討しており、今後もパラマウント通信を続けていける最善な方法を編集員も模索しております。通信の発行につきましては決まりましたら報告させて頂きます。会員の皆様からも意見、取り上げて欲しい記事ネタなどがございましたら協会までどし、どし送ってください！これからも会員の皆様に愛されるパラマウント通信を発行して参りますので、よろしく願い致します。

(一社)日本障害者カヌー協会から会員募集のお知らせ

(一社)日本障害者カヌー協会では、一人でも多くの方に、協会に協力いただきたいと願っています。会員になる資格は特にありません。障害の有無は関係ありません。協会主旨に賛同いただければどなたでもOK。入会にあたっては、入会金はございませんので、年会費2000円を振り込み頂き、協会ホームページから入会申込書をダウンロードして頂き、必要事項を記入して協会事務局宛に郵送をお願い致します。

事務局連絡先 〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階 (一社)日本障害者カヌー協会 電話 03-6229-5440

編集人 〒630-0201 奈良県生駒市小明町493-17 吉田義朗 方

会費振込先 *郵便振替です
 〈加入者名〉 一般社団法人日本障害者カヌー協会
 〈口座番号〉 01020-7-12908
 ※他金融機関からの振込口座番号
 一〇九(イチゼロキユウ)店(109)当座0012908

ホームページ: <http://www.japan-paracha.org/>
 協会へのご連絡、お問合せは、ホームページの「協会への問合せ」からお願いします。



編集後記
 明けない夜はありません。今年がダメなら来年、来年がダメなら再来年！川原で、湖岸で、海岸で、プールサイドで、皆さんの笑顔を待っています。(とほほのみやざき)

家族が一人(猫)増えました。会社の倉庫でケガしているのを保護して、縁あり家にやって来ました。気づけば子ども2人、猫3匹の大家族に、ステイ生活は続いておりますが家の中は賑やかです。(マコト)



SOMPOひまわり生命

あなたが健康だと、だれかがうれしい。

